

I 実践

1 研究主題

セルフエスティームを高め、自己肯定感を育む人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校は、『自ら学び 心身ともにたくましく 心豊かな塙山っ子の育成』を教育目標として掲げている。児童のよさを積極的に認め、自己肯定感・自己有用感を育て、自分自身を好きになることで、セルフエスティームを高めることが重点目標となっている。

そこで、児童一人一人がいろいろな人とふれあい、体験する活動を通して、自分や他の人々の気持ちを考え、一人一人がかけがえのない存在であり、お互いに尊重しあうことが大切であると理解することを目指し、そこから自己肯定感を育てられるように本主題を設定した。

(2) 研究の内容

ア 豊かな体験活動

異学年交流・たてわり班活動・地域社会との交流 など

イ 人権に関する作品の応募

人権書道・人権メッセージ など

2 実践内容

(1) 異学年交流（幼小交流 ～はなやまあきまつり～）

1 1月上旬に、学区内の幼稚園・保育園の園児たちを招待して、「はなやまあきまつり」を行った。この活動では、第1・2学年の児童が様々なお店屋さんで園児たちをもてなし、楽しませていた。普段は上級生たちに世話してもらうことの多い児童らも、自身が上級生となって、熱心に世話をする姿が見られた。



(2) 地域社会との交流

①地域防災訓練（地域に住む方々との交流）

1 0月下旬に、地域に住む方々と合同で、防災訓練を行った。この活動には、学校以外で災害にあったときに、どのように避難したらよいか、地域にはどんな人が住んでいるのかを確認し、交流しながら避難場所でのルールなどを学んでいくねらいがある。普段あまり地域の方々と関わっていない児童にとっては、地域社会と交流を図るよい機会となった。



②陸上記録会に向けての練習（地域の中中学生との交流）

1 0月中旬に、学区内の陸上部の中中学生をゲストティーチャーに招き、陸上記録会に向けての特別練習が行われた。この活動は、出身小学校が異なる中中学生とも交流する機会となり、有意義な時間であった。



(3) 人権メッセージ

1学期の終わり頃、全児童に呼びかけて実施した。1年生から6年生まで全クラスで取り組み、全部で313点の作品があがった。今回は、夏休み中の課題として実施を呼びかけた学級も多く、親子で人権について考えるよい機会となった。子どもたちはそれぞれ、「相手の気持ちになって考えてみたこと」「いじめについて考えたこと」など、自分なりに感じたことを素直に表現してメッセージを書いていた。提出した作品を校内の人権コーナーに掲示したところ、帰りがけなどに興味をもって作品を見ていく児童の姿が見られた。

3 研究の成果

(1) 異学年交流

自分よりも年齢や学年が下の児童に対して、思いやりをもって、優しく声をかける姿が見られるようになった。普段と違う立場に立って、様々な学年の子どもたちと関わることで、自己肯定感が高まり、更なる活動意欲につながった。

(2) 地域社会との交流

地域の方々と合同で防災訓練をすることにより、自他の命の大切さに改めて気づいた子どもたちの声が聞かれるようになった。また、消防署など学区外の地域の方々の協力があってこの訓練が成り立っていることを知り、感謝の気持ちを育むよい機会となった。

(3) 人権メッセージ実践（「いいところ発見」実践）

自分一人で考える子もいれば、親子で一緒に考える子もいたが、どの子どもたちも人権について自分なりに一生懸命考えるよい機会となった。

また、本校では、「いいところ発見」と題して月に1回くらいのペースで友だちのよいところについてメッセージを書く活動がある。ここでは、相手のよいところを知ることはもちろん、自分のよいところも知ることができ、自己肯定感を高めるのにとても役立った。

II 今後の課題

今回、様々な活動を通して人権教育を実践してきたが、「活動のときだけ」「行事のときだけ」になってしまい、その後の日常生活にあまり生かされていないのが現状である。子どもたち一人一人のセルフエスティームを高めるため、教師も人権について関心をもち、日常生活の中で実践して模範となったり、繰り返し指導したりしていくことが課題となる。

また、人権コーナーの充実を図り、人権メッセージを掲示しただけで終わりにするのではなく、児童の経験や思いを広げる場として、もっと子どもたちが関心をもつように考えていく必要がある。

III 人権コーナー設置の様子

